

# 「痛み止め(鎮痛薬)」を選ぶのは難しい…

(頭、生理、歯、筋肉、咽頭(のど)などの痛みに使う「痛み止め」のお話です)

<市販されている痛み止めの製品に、どのような働きを示す成分が入っているかを示した例です>

働き (成分名)	製品A	製品B	製品C	製品D	製品E	製品F	製品G	…
<b>痛みを抑える働き</b> (成分名:アセトアミノフェン、イソプロピルアンチピリン、エテンザミド、アスピリン、ロキソプロフェンナトリウム水和物、イブプロフェンなど)	○	○	○	○	○	○	○	
<b>痛みを抑える働きを助け、痛みを和らげる働き</b> (成分名:プロムワレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素など)			○	○	○	○	○	
<b>痛みを抑える働きを助け、痛みを和らげる働き</b> (成分名:カフェイン、無水カフェイン、安息香酸ナトリウムカフェインなど)				○		○	○	
<b>胃を保護する働き</b> (成分名:合成ヒドロタルサイト、酸化マグネシウム、合成ケイ酸アルミニウム乾燥水酸化アルミニウムゲルなど)		○			○	○		
<b>疲労回復を助ける働き</b> (成分名:ビタミンB <sub>1</sub> 、ビタミンB <sub>2</sub> など)							○	

○: 製品が示す働き

痛みを抑える働きのみ示すもの(製品A)や、痛みを抑える働きに加えて胃を保護する働きも示すもの(製品B)など、多くの種類がありますね。

同じ働きを示すものでも、製品によって含まれる成分の量が異なる場合もあります。

多くの製品の中から**症状や体質に合う製品**を選ぶことは、実は大変難しいのです。

初めて痛み止めを買うときや、以前に使った製品が合わなかった場合は、

**薬剤師などに相談し、症状や体質に合う薬を選んでもらいましょう！**



痛みを抑える働きのアスピリンやロキソプロフェンナトリウム水和物、イブプロフェンは、15歳未満の人は飲むことができません！！

## 注意

生理痛以外のお腹の痛みに、痛み止めは使いません！

生理痛以外のお腹の痛みに使う製品も「痛み止め」と言うことがあります。頭痛や生理痛などに使う「痛み止め」とは成分が異なり、同じではありません。

生理痛以外のお腹の痛みに対し、頭痛や生理痛などに使う「痛み止め」を飲んではいけません。

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《一出張相談会—保健室に学校薬剤師が来ます》  
ドラッグレターの内容、医薬品や健康、薬物乱用などについて、相談・聞きたいことがある人は保健室まで！  
7月13日(火) 16時30分～17時30分

作成・発行元

北陸大学薬学部  
准教授 大柳賀津夫(学校薬剤師)  
准教授 岡本晃典(薬剤師)  
5年生 南平沙和香

